

第Ⅳ部門

「道の駅」の活性化を目指した情報提供に関する調査分析

大阪産業大学工学部 学生員 ○伊藤篤志
大阪産業大学工学部 フェロー 中野雅弘
大阪産業大学工学部 正会員 大島秀樹

1. はじめに

「道の駅」は、ドライバーのための休憩施設と市町村等の整備する各種の地域振興施設とを一体的に整備するもので今回「道の駅」でのアンケート調査を実施しその分析を試みた。将来的には休憩サービスの高度化、多機能化を図るとともに、地域情報の発信基地を目指すことが望ましい。

2. 調査場所の概要

今回対象とした「あさご」・「但馬楽座」は、兵庫県の中央部に位置し、瀬戸内海側と日本海側の交通の経過地にある。気性は、日本海気候であり、年平均気温は14.5℃と低く、年間降雨量は1,835mmと多い。農業・林業が産業の中心であるが、近年における都市化の影響によって、農家人口の減少や兼業化・高齢化が進行している。その対策として、農地流動化の促進による中核的農家の育成や集团的土地利用の展開から、農産物の生産体制の確立、良品生産等生産性の高い農林業の振興を図っている。また、地場産業の振興による生産と流通が一体となった既存の特産品の開発に努め観光リゾートと連携した都市と農村の交流による体験農林業の開発等にも力を注いでいる。

3. アンケートの概要

実施月日は2001年8月12日であり、アンケート項目は主に①道の駅について②道路交通の情報提供について③道の駅の情報提供について④ITSについて⑤DSRCを用いたサービスについて⑥回答者についてである。各項目設問として3～5個の内容がある。道の駅を利用したドライバーを対象に180人にアンケートを行った。

4. アンケートの分析

質問項目のうち、「道の駅に来たには何回目ですか」「道の駅の良いところは」「道の駅の情報提供について満足していますか」の3つの設問について取り上げる。回答結果は表1～表3にまとめた。

表1 来た回数

初めて	22
2～5回	51
6～10回	42
11回以上	65

表2 良いところ

食事	12
お土産	71
休憩	61
特になし	15
その他	21

表3 情報提供の満足度

はい	89
いいえ	81
回答なし	10

表1の「来た回数」は複数回訪れる人が多いことがわかる。表2の「良いところ」は特産物のお土産が人気のようである。この結果より、地場産業の発展に努め、また、関連のサービスを展開していくことにより地域全体の活性化の可能性があると考える。表3の「情報提供の満足度」はほぼ半数に分かれ、調査により、利用客が求めている情報が少ないように思えた。調査から、①内容が読みづらい。②絵図がない。(あってもわかりにくい) ③情報が少ない。の意見が多い。

次にアンケート結果を基に、エクセル統計のソフトにより数量化Ⅱ類による分析を行った。

「ETCの知名度」に関しては図1のように「どこから来たか」が判別に強く影響している。表4の「どこから来たか」を見ると町内・郡内が低いのに対して県内・他県（主に京阪神）が寄与している。この結果は道の駅を支える地元住民は都心から来た人に比べてETCなどの最新交通情報システムについての知識が少ないことがわかる。この結果は道の駅の活性化を考えるうえで重要になってくる。

アイテム	カテゴリ	第1軸	Q62どこから来たか	町内 郡内 県内 他県	
Q51駐車場の出入り口案内	はい いいえ 特になし	0.1595 -0.0701 -0.8599			-0.9088 -0.9665 0.2553 0.5055
Q52情報スタンド	はい いいえ 特になし	0.1030 -0.3365 0.0376	Q64職業	学生 会社員 公務員 自営業 その他	0.0047 0.2682 0.3986 -0.3462 -0.1435
Q53予約受付設置	はい いいえ 特になし	-0.0236 0.0489 -0.0124	Q65旅行目的	里帰り 観光 仕事 地元の人 その他	-0.0737 0.0801 0.3417 0.1778 -0.3292
Q54キャンセル決済	はい いいえ 特になし	-0.0767 -0.0583 0.7713			
Q61年齢	25歳以下 25～30歳 30～40歳 40～50歳 50歳以上	0.7823 0.5009 0.4011 -0.1924 -0.5166	相関比		0.4043

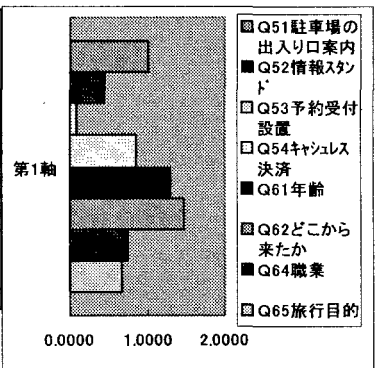


表4「ETCの知名度」数量化Ⅱ類分析結果

図1 アイテムレンジ

「道の駅にきた回数について」に関しては図2のように「職業」の影響度が高い。表5の「職業」を見ると学生に低い値が出ている。この結果は学生（若い人）が道の駅をあまり利用していないのが分かる。若い年代をいかに集めるかこれからの道の駅の1つの課題だと考える。

アイテム	カテゴリ	第1軸	Q61年齢	25歳以下 25～30歳 30～40歳 40～50歳 50歳以上	
Q31道の駅の情報提供満足度	はい いいえ 特になし	0.3640 -0.3413 0.0885			-1.0160 -0.5913 0.2720 0.1296 0.1523
Q12駅の良いところ	食事 お土産 休憩 特になし その他	0.0472 0.1580 -0.2053 -0.1134 0.1165	Q62どこから来たか	町内 郡内 県内 他県	-0.1562 0.4423 0.1995 -0.5031
Q51駐車場の出入り口案内	はい いいえ 特になし	-0.0941 0.2613 -0.2351	Q64職業	学生 会社員 公務員 自営業 その他	-2.3874 0.0559 -0.0260 0.0121 0.1997
Q52情報スタンド	はい いいえ 特になし	-0.0152 0.3061 -1.3193	Q65旅行目的	里帰り 観光 仕事 地元の人 その他	-0.0129 0.0464 -0.3241 -0.1741 0.1451
Q53予約受付設置	はい いいえ 特になし	0.0491 0.0636 -0.5188			
Q54キャンセル決済	はい いいえ 特になし	-0.0343 -0.2239 1.1227	相関比		0.3996

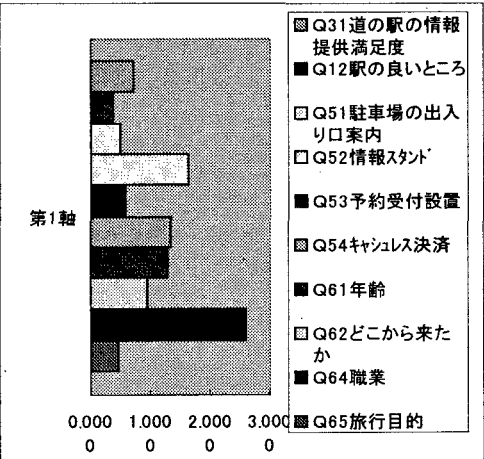


表5「道の駅にきた回数」数量化Ⅱ類分析結果

図2 アイテムレンジ

5. おわりに

今回の道の駅に対するアンケート調査を分析した結果いくつかの課題が出てきた。道の駅の発展を考えた場合、情報提供の改善が1つあげられる。それは道の駅が地域と一体となって提供する情報を創り上げることである。また、ITを活用した新しい情報システムを導入することで、将来道の駅が地域情報発信の中心の一つになれば良いと考える。次にサービスの向上である。各道の駅でのサービスは確かに整ってきているが、幅広い年齢層にも対応するためにも提供するサービスを考え、若い年齢層も集まる道の駅にすることが望まれる。このように、道の駅はこれからの地方活性化の起爆剤的可能性を秘めており、情報技術（IT）等の活用により新しい情報発信拠点としても注目される。さらに、地域の中核としてその地域の古き良き伝統・文化も活かした情報発信も望まれよう。

最後に、道の駅の資料を提供していただいた近畿地方整備局道路部に感謝する次第である。

（参考文献）

- ・「道の駅の本」・監修 建設省道路局・編集 道路保全技術センター・発行 ギョウセイ・発行日 1993年7月5日
- ・その他、関係地図等